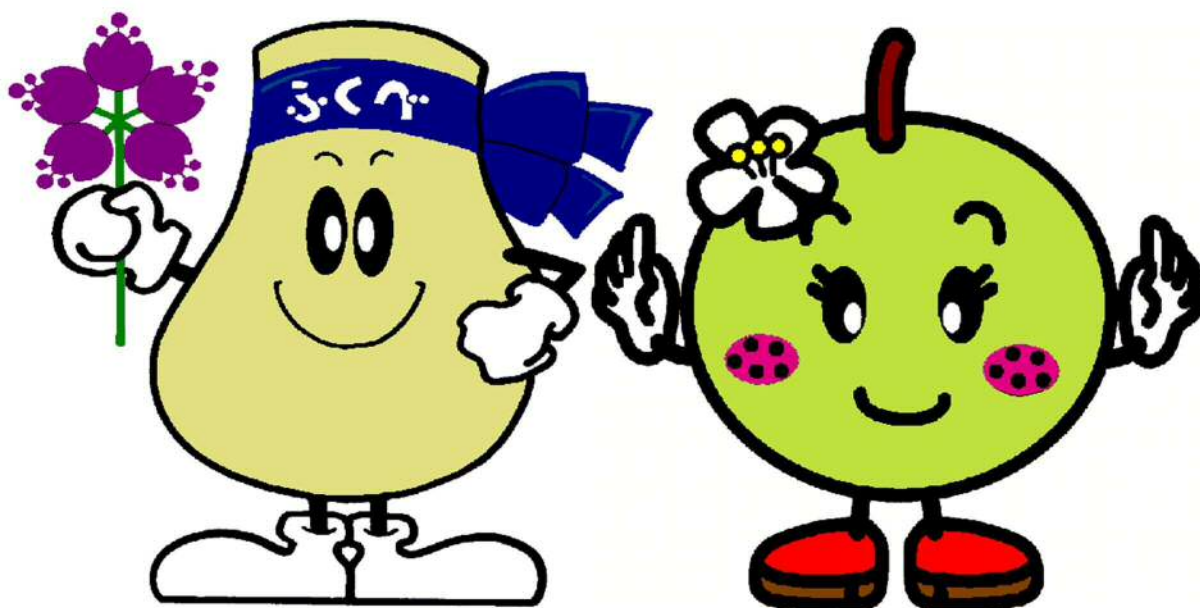


福部地域未来プラン（素案）

～いつまでも住み続けられるまちにするために、
いまできることをみんなではじめよう～



福部町総合支所

目次

- 1. 目的位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・ P3
- 2. 地域の現況・・・・・・・・・・・・・・・・ P3～6
 - (1) 位置、地勢について
 - (2) 土地利用について
 - (3) 人口について
 - (4) 市町村合併後の主なあゆみ
- 3. 地域の特性・資源・・・・・・・・ P7
 - 歴史 ●特性 ●資源
- 4. 地域の現状と課題、めざす将来像について・・・・ P8～17
 - (1) 地域の現状と課題
 - (2) めざす将来像

1. 目的位置づけ

平成16年11月の市町村合併以降、本市は各地域の資源を活かしたまちづくりを進めてきました。福部町では、砂の美術館やジオパークといった鳥取砂丘の振興が進み、砂丘地で栽培されるらっきょうの花が市の花に選ばれ、砂丘らっきょうがブラント農作物として認定されるなど明るいニュースが続きました。しかし、全市的な人口減少の中、福部町の人口も減少し続け、近い将来、地域の活力が失われていくことが顕著化してきました。

このことから、平成30年3月に鳥取大学地域学部 山下博樹 教授の協力で「福部町のまちづくり構想」を策定し、福部町の魅力ある地域づくりに資するとともに、まちづくりにつながるような具体的な方向を示す「福部町のまちづくり構想基本計画」を平成31年3月(令和6年3月改訂)に策定し、地域が一体となって特色あるまちづくりを推進しております。

また、本プランは、「福部町のまちづくり構想基本計画」を引き継ぐとともに、「第11次鳥取市総合計画」や「鳥取市過疎地域持続的発展計画」、「鳥取市中山間地域対策強化方針」など、関連計画・方針と整合し、地域振興を目的とした未来に向けたプランと位置づけます。

2. 地域の現況

(1) 位置、地勢について

福部町は本市北東部に位置し、北は風光明媚な日本海、東は岩美町に境を接しています。面積は34.94㎢で本市全体の約4.6%を占めています。地域全体が山陰海岸ジオパーク^{注1}エリアに属し、鳥取砂丘は代表的な見どころとなっています。鳥取砂丘周辺の砂丘地では特産の「砂丘らっきょう」が栽培され、日本有数の栽培面積を誇っています。



図1:福部町の位置図

注1 山陰海岸ジオパーク：鳥取県、兵庫県、京都府にまたがる、地球科学的に見て重要な自然の遺産を含む、世界ジオパークネットワークが認めた自然に親しむための公園。

出典 図1:福部町の位置図 http://jichisoken.jp/publication/researchpaper/117/No.117_153-168.pdf

(2) 土地利用について

1 割が砂丘地、2 割が平地、7 割が山地となっており、砂丘地では特産の「鳥取砂丘らっきょう」「ふくべ砂丘らっきょう」、平地では水稻、山地では梨の栽培が盛んである。

○道路網の整備



図2: 道路網の整備状況



写真1: 山陰近畿自動車道



写真2: 岩美広域農道

福部町では、近年2つの道路整備が大きく前進しました。1つは福部町北部地域を横断する山陰近畿自動車道駒馳山バイパスです。この道路は、鳥取・兵庫・京都の3府県にまたがり、山陰海岸ジオパークに沿った整備が進められていることから、「ジオパークロード」の愛称で親しまれています。

もう1つは福部町南部地域を横断する岩美広域農道です。この道路は、農業経営基盤の強化や中山間地域の活性化はもとより、災害時の広域迂回路としての機能や、周辺の観光地を結ぶ新たな観光道路として期待されていることから、「美野梨ロード」の愛称で親しまれています。

○塩見川と治水

塩見川下流域では幾度となく洪水被害に見舞われ、昭和54年から河川改修工事が行われています。

平成29年には狭さく部の改修が進み、住宅への浸水被害の軽減が図られました。令和3年から支所上流部の改修が引き続き行われています。

(3) 人口について

○人口等

福部町の人口は、市町村合併前の平成16年は3,479人（H16.12.31）でしたが、令和5年には2,675人（R5.12.31）まで減少しています。その割合は、合併後20年間で約23%減少したこととなっています。

世帯数においては、平成16年は955世帯でしたが、令和5年には1,047世帯まで増加しています。合併後20年間で約10%増加しています。

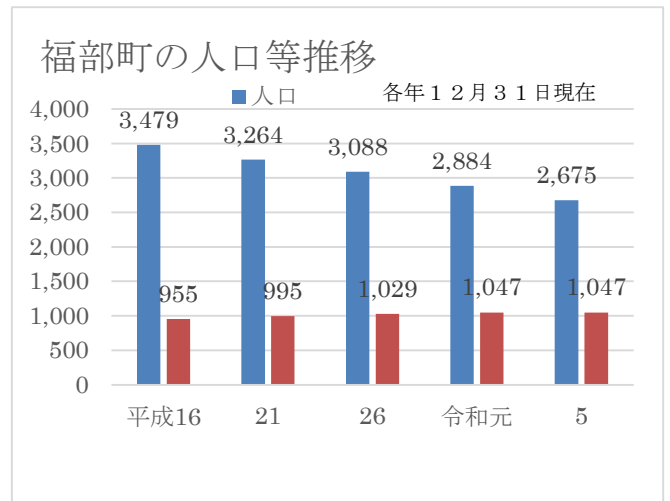


図3: 福部町の人口等の推移

○少子高齢化の進行

市町村合併当初、福部町の年齢3階層別人口構成は市全体の平均値とほぼ同等でした。しかし、約20年を経た現在の構成は、市全体より早く少子高齢化が進行していることがうかがえます。

このことから、今後、何も対策を講じなければ、福部町の少子高齢化はますます進行し、地域の活力低下は避けられない状況となっています。

また、高齢化率は令和5年12月31日現在、36.9%となっています。

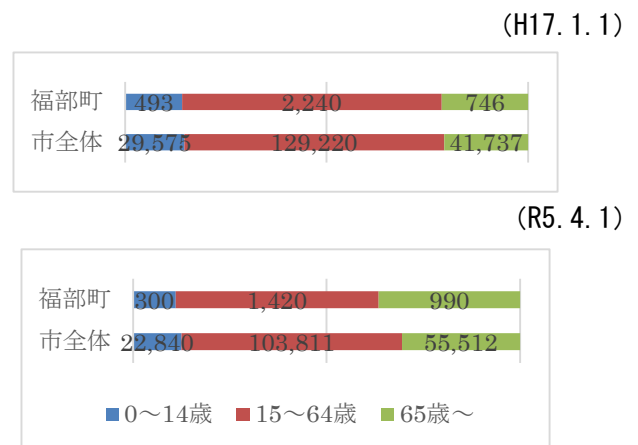


図4: 年齢3階層別人口構成

(4) 市町村合併後の主なあゆみ

平成16年	らっきょう販売高が10億円突破
平成17年	福部中学校体育館が完成、らっきょうの花が市の花に
平成18年	岩美広域農道 上野～美敷間が開通、砂の美術館が開館
平成20年	岩美広域農道 蔵見～岩美間が開通、らっちゃんバス ^{注2} が運行開始
平成22年	山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定
平成23年	福部地域振興プラン（平成23年度～平成27年度）を策定
平成24年	砂の美術館が世界初の砂像展示専門の屋内美術館として開館
平成26年	駈馳山バイパスが開通、福部郵便局が総合支所内に移転
平成27年	地域振興会議がスタート
平成28年	砂丘らっきょうがG I ^{注3} 認証取得、福部未来学園が開校
平成29年	岩美広域農道が全線開通、新インターチェンジ要望活動が開始
平成30年	総合支所庁舎耐震改修工事に着工
令和 元年	総合支所庁舎耐震改修工事完成
令和 2年	福部町コミュニティセンター改修及び多目的ホール増築工事が完成し、複合化施設となる
令和 4年	過疎地域指定



写真3:らっきょうの花（市の花）



写真4:福部未来学園

注2 らっちゃんバス：公共交通空白地有償運送制度で運行される福部町内循環バス

注3 G I：地理的表示（Geographical Indication）

3. 地域の特性・資源

●歴史

福部町は、今から約5000年前の縄文時代には既に人が住んでいたことが明らかとなっており、これを示す土器や石器が直浪・栗谷遺跡から多数出土しています。これらの遺跡の成り立ちには地理的に砂丘が大きく関係しており、砂丘こそ福部の人々の生活の母とも言うべき存在であり、福部町の歴史は砂丘から始まったとも言えます。

町の前身である福部村は古代から長く1村でしたが、徳川時代から大正時代にかけて、2～3村の分割と統合を繰り返し、昭和3年に「服部村」と「塩見村」が合併して「福部村」が誕生しました。

「福部」の名称は、この地域が江戸時代に「福田保」と「服部庄」の区域に含まれており、これを1文字ずつ取って名づけたものと言われています。

●特性

①海岸線は、山陰海岸国立公園および山陰海岸ジオパーク※エリアの一部になっており、特に鳥取砂丘は東西16km、南北2kmと日本最大規模を誇り、年間を通じて多くの観光客が訪れ、本市のみならず鳥取県を代表する観光地になっています。

②砂丘地で栽培される「鳥取砂丘らっきょう」「ふくべ砂丘らっきょう」は、全国有数の出荷量とその名を全国に知られた鳥取県を代表する特産品として確立されており、平成28年3月に地理的表示保護制度（GI制度）に登録されています。また、本市の花でもある赤紫色で可憐な「らっきょうの花」は、鳥取砂丘の新しい観光資源として全国に情報発信しています。

③鳥取砂丘に近い湯山地区には、砂丘観光と連携した「観光梨狩り園」や直売所が多数あり、積極的に観光農業を実践しています。

④福部町の南部地域は、水稻栽培を中心とした純農村地帯であり、農家のほとんどは第2種兼業農家です。

●資源

区 分	主なもの
特産品	梨、らっきょう、エシャロット、砂たまご、砂コーヒー
観 光	鳥取砂丘、鳥取砂丘砂の美術館、多鯰ヶ池、福部海岸、砂丘温泉ふれあい会館、らっきょう畑
イベント	鳥取砂丘らっきょう花マラソン大会、アイデア館まつり、鳥取すごい！ライド、多鯰ヶ池手づくりいかだレース

4. 地域の現状と課題、めざす将来像

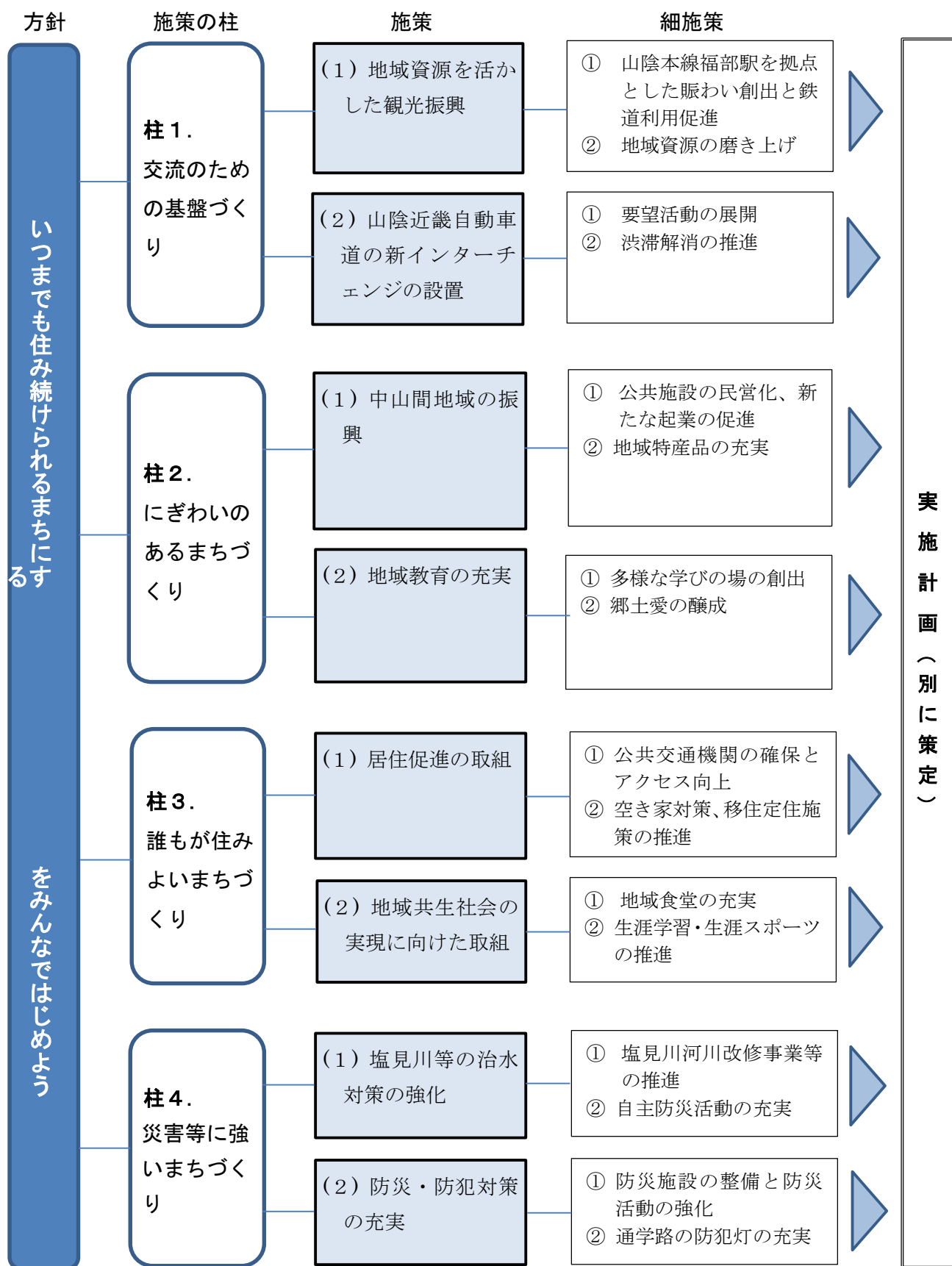
(1) 地域の現状と課題

福部町の中心部は南の山間地に延びる2本の谷筋が合流する地点にあり、鳥取市福部町総合支所、福部町コミュニティセンター、JR 福部駅、福部未来学園など公共施設をはじめとしたインフラがコンパクトに整備され、充実しているが日常生活レベルの商品購入、飲食、サービスに対応した店舗等はほとんどなく、高齢者など日常の外出が自由にできない交通弱者が買い物難民化し、移動販売などに依存した生活を強いられている。

また、中心部を貫流する塩見川の氾濫による浸水被害に長年悩まされ、昭和 54 年以降、鳥取県による河川改修工事が実施されているが、浸水被害の完全解消には至っていない。

北部の日本海沿岸には山陰海岸ジオパークの一翼を担う鳥取砂丘を配し、そこへの観光集客と砂丘地でのラッキョウや梨の栽培などが盛んである。これらの砂丘由来の農産物は観光資源としても活用されるが、町内にそれらを販売する店舗・施設が十分には整備されていない。

さらに、町北部を横断する国道9号線は広域幹線道路であるが、町域は片側1車線ずつのみで、観光シーズンには鳥取砂丘への観光客のマイカーで砂丘周辺が慢性的に渋滞している。近年山陰近畿自動車道の整備・開通により自動車交通環境が大きく改善され、福部町域には、鳥取砂丘に程近い湯山地区にインターチェンジが設置されているが、町中心部からは約3km離れている。



・ 4つの柱に沿った施策

柱1. 「交流のための基盤づくり」

(1) 地域資源を活かした観光振興

① 山陰本線福部駅を拠点とした賑わい創出と鉄道利用促進

福部駅は、明治43年に塩見駅として開業し、昭和24年に福部駅へ改称、昭和47年の無人駅化を経て、現在に至っています。

令和4年、地元団体が福部駅舎周辺整備に着手し、福部駅を賑わいの拠点とする取組がスタートしました。



写真 5: 福部駅



図5: 福部駅周辺の将来イメージ

今後、塩見川は県の河川改修事業で付け替わり、川幅は現在の2倍程度に拡幅され、それに伴い新たな橋梁も整備される予定です。福部町では、このタイミングで老朽化した駐輪場や駅前広場を更新し、地域住民や観光客が利用しやすい福部駅となるよう取り組みます。

② 地域資源の磨き上げ

福部町は、鳥取砂丘オアシス広場を中心に県内有数のスポーツイベントの開催地となっています。昭和62年にスタートした鳥取砂丘らっきょう花マラソン大会は令和6年に第38回を迎え、近年では、鳥取マラソンなども開催されるようになりました。



写真6: らっきょう花マラソン大会

鳥取砂丘に程近い多鯨ヶ池では、地元団体による活性化を目的としたイベントが通年で開催されるようになり、新たな観光スポットとして注目されています。今後も、福部町がスポーツイベントの適地であることの可能性をさらに探求していきます。



写真7: 多鯨ヶ池いかだレース

鳥取砂丘や多鯨ヶ池以外にも、福部町内には坂谷神社や鶏岩など、磨けば光る地域資源が多く存在しています。これらの地域資源を磨き上げ、町外から訪れる人もらっちゃんバスを利用して、周遊、観光できるようなまちづくりに取り組みます。



写真 8: 坂谷神社

(2) 山陰近畿自動車道の新インターチェンジ（I C）の設置

① 要望活動の展開



図6: 自動車道の整備状況

山陰近畿自動車道の整備が進んでいますが、今後、北近畿方面からの観光入込客の増加が見込まれます。

しかし、現在も行楽シーズンには砂丘周辺の道路が渋滞し、地域住民の生活に影響が出ていることから、抜本的な対策が必要です。

観光入込客の福部 I Cや覚寺交差点へ集中することによる渋滞を避けるため、山陰近畿自動車道と市道海士海岸線が交差する付近に新たなインターチェンジを設置するよう、要望活動を展開していきます。



写真9: 砂丘の渋滞状況

② 渋滞解消の推進

現在、福部町内には渋滞解消につながる新たな駐車場の適地はありませんが、旧コミュニティセンターについて、今後、解体後の跡地利用の検討を進める中で、新たな駐車場としての可能性を探ります。



写真10: 旧コミュニティセンター

柱2. 「にぎわいのあるまちづくり」

(1) 中山間地域の振興

① 公共施設の民営化、新たな起業の促進

鳥取市内では、旧校舎などを活用した新たな取組が進んでいます。福部町でも旧福部中学校校舎、旧福部幼稚園園舎、旧福部町寄宿舍等の活用が進んでいますがまだまだ十分ではありません。今後、公共施設の更新問題をふまえ、これらの施設のさらなる活用を図ります。



写真 11: 旧福部中学校校舎

岩戸漁港では、海女の就業を契機に岩戸産の魚介類の高付加価値化が進んでいます。引き続き、就業を支援するとともに、町内産の海産物や農産物を使った商品開発等を推進します。



写真12: 岩戸産わかめの収穫

また、福部町中心部や砂丘周辺でマルシェのようなイベントが定期的開催され、地域で生み出された富が地域で循環されるしくみの定着をめざします。



写真13: ふくふくまつり

③ 地域特産品の充実

福部町で砂丘らっきょうの生産が始まり100年余りが経過しました。しかし、生産現場では機械化の遅れや人手不足など多くの課題を抱えています。引き続き、生産振興に取り組むとともに、農業のA I 化や脱炭素に向けた取組など新たな技術の普及を推進します。



写真 14: らっきょうの収穫

福部町には、砂丘らっきょうの他にも二十世紀梨などの優れた特産品があり、シーズン中において、砂丘周辺の観光梨園は多くの観光客でにぎわいます。引き続き、砂丘らっきょうと同様に地域特産品として充実させます。



写真15: 梨の袋掛け

(2) 地域教育の充実

① 多様な学びの場の創出

町内産の砂丘らっきょうや梨などの農産物、岩戸漁港の海産物に付加価値を付け、魅力的な観光資源として全国発信できるよう、農業体験や地域住民とのふれあいの機会を充実します。こうした取組を通じて若手後継者の育成を図ります。



写真16: らっきょうの植え付け

② 郷土愛の醸成

福部未来学園の特設教科「みらい」では、福部の自然や地域の人々からの学びを通じ、豊かな人間関係や地域の未来を考える「ふるさとキャリア学習」を実践しています。また、保護者を中心とした有志で立ち上げた団体である「福部となりのがっこう」が、旧中学校の空き教室を活用して、地元の資源を活用した体験教室を実施しています。引き続き、魅力ある学習生活を過ごす中で郷土愛に溢れた子どもの健全育成を進めます。

柱3. 「誰もが住みよいまちづくり」

(1) 居住推進の取組

① 公共交通の確保とアクセス向上

地域交通として定着したらっちゃんバスも、鉄道や路線バスとのアクセスが十分ではありません。経路や時間帯を見直し、利便性を向上させるとともに、利用者のニーズに合わせたライドシェア^{注4}などの新たな移動手段の可能性も検討します。



写真17: らっちゃんバス

② 空き家対策、移住定住施策の推進

定住人口を維持するためには、関係人口の創出や地域主体の空き家対策が重要です。休業中の民宿等を活用した体験型民泊の推進や空き家データを集約・活用した移住定住希望者への積極的なマッチング、情報発信も必要なことから、今後、こうした取組を推進します。



写真18: 体験型ゲストハウス

(2) 地域共生社会の実現に向けた取組

① 地域食堂の充実

地域食堂は、参加者同士や運営ボランティア同士がお互い支え合い、世代や分野を越えてつながる場としての役割を担い、地域共生社会の実現に貢献する取組です。福部町社会福祉協議会や支援企業、支援団体等と協力し、利用者に様々な体験の機会が提供できるよう取り組みます。



写真19: らっちゃん食堂

注4 ライドシェア：ライドシェアリングとはウェブサイトやモバイルアプリを介し、専用の貸し切り車両を運転する運転手と乗客をマッチングさせるサービス

② 生涯学習・生涯スポーツの推進

誰もが住みよい地域共生社会の実現には、住民が生涯学習や生涯スポーツに積極的に参加し、健康管理に努めるとともに地域のつながりをつくることが重要です。こうした取組が前進するよう、住民が集い学べる場の充実に取り組みます。



写真 20: グラウンドゴルフ

柱 4. 「災害等に強いまちづくり」

(1) 治水対策の強化等

① 塩見川河川改修事業等の推進

塩見川の河川改修の進捗により福部町総合支所周辺の治水対策は向上しました。しかし、豪雨災害は依然として全国的に増加傾向にあることから、引き続き、駅前地区の内水排除等、本事業の早期完成を図るとともに、江川河川改修事業も積極的に推進します。



写真21: 塩見川水害状況

「天然のダム」とも呼ばれる水田の保水機能を維持するため、塩見川水系上流域に位置する福部町南部の豊かな水田における農業生産活動を支援し、災害に強く持続可能な中山間地域づくりを進めます。



写真22: 左近集落の棚田

② 自主防災活動の充実

地域住民で組織する自主防災会、消防団および行政等が連携し、地域の支えあい体制の強化を図る防災学習や訓練などを定期的実施します。

また、自主防災会の母体となる自治会の組織力を高めるため、自治会加入率の向上に努めます。



写真22: 防災フェア

(2) 防災・防犯対策の充実

① 防災施設の整備と防災活動の強化

砂丘温泉ふれあい会館は、福部地域の避難場所として指定されています。今後も防災体制の拡充に努め、災害に強いまちづくりを進めます。



写真25: 砂丘温泉ふれあい会館

② 通学路の防犯灯の充実

通学路の安全性をさらに向上させるため、まちづくり協議会が事業主体となり設置した防犯灯の維持管理を行います。また、追加要望があった際には現地確認を行い、増設を進めます。



写真27: 防犯灯

(2) めざす将来像

いつまでも住み続けられるまち 福部町

全国的に有名な鳥取砂丘を有する福部町は、雄大な鳥取砂丘の魅力を活かしながら、世界初の砂像の屋内展示施設「鳥取砂丘砂の美術館」、砂丘が生み出す地域ブランド「砂丘らっきょう」、二十世紀梨を代表とする「観光梨狩り園」など魅力ある観光資源と融合した観光・産業振興を行い、「自然と調和し多くの人に親しまれる魅力に富んだ観光地」として、今後もますます発展して行くことが重要です。

また、山陰海岸国立公園を有する美しい自然と人情豊かな福部町の中で住民相互が交流を図り、郷土愛を育み、誰もが生きがいを持ち、健康で快適な暮らしができる協働のまちづくりを推進し、次世代につながる「いつまでも住み続けられるまち 福部町」をめざします。

鳥取市過疎地域持続的発展計画

持続的発展施策区分	事業名（施設名）		事業内容	事業主体	備考	事業内容詳細	評価	コメント
					(対象地域)			
産業の振興	観光又はレクリエーション		鳥取砂丘砂の美術館整備事業	市	福部	観光・ジオパーク推進課 鳥取砂丘情報館外壁改修 ・測量設計業務 一式 ・外壁改修工事 一式 砂像展示館搬入口シャッター改修 ・シャッター更新 1ヶ所 砂の美術館外構木柵改修 ・木柵改修 一式 砂の美術館空調設備更新 ・空調設備 1 3 基 砂の美術館雨樋取付工事 ・雨樋設置、側溝整備 一式	3 継続(計画通り)	計画通り、令和5年度から事業着手。令和6年度から空調更新を計画追加。令和7年度に砂像展示館雨樋設置を追加予定。
産業の振興	観光又はレクリエーション		中山間地域魅力ある民泊推進事業	市	福部・河原・用瀬・佐治・青谷	地域振興課 中山間地域において、特色ある宿泊事業に地域ぐるみで取り組み、民泊等施設を新規に運営する者又は既に運営している者で利用拡大を目指す者に対し、民泊等施設の整備を中心に補助を行う。	3 継続(計画通り)	令和5年度は、青谷地内の古民家を民泊施設として整備する経費について助成した（一般財源で対応）。今後も申請があれば支援していく予定。
産業の振興	観光又はレクリエーション		多鯉ヶ池周辺整備事業	市	福部	観光・ジオパーク推進課 駐車場の舗装改良 ・As舗装 2,000㎡ ・水路布設 L=18.0m	3 継続(計画通り)	令和6年内に完了予定。
産業の振興	過疎地域持続的発展特別事業		輝く中山間地域創出事業	市	福部・河原・用瀬・佐治・青谷	地域振興課 以下の事業に対して補助する。 ・地域住民や団体等が創意工夫を凝らして中山間地域の活性化のために策定した計画に基づいて展開するソフト事業。 ・中山間地域の資源を活用し、新たな取り組みを実施するむらとまち、またはむら同士の交流事業。	3 継続(計画通り)	【令和5年度】 ・福部地域：福部駅のリニューアル、福部駅を拠点とした交流イベントの実施 346千円 ・青谷地域：夏泊の海女さんが復活したことのPR及び夏泊魅力を全国に発信 179千円 ※今後も各地域独自の事業やむらとまちの交流を支援することで、地域の活性化を推進していく。
情報化	電気通信施設等情報化施設	有線テレビジョン放送施設	超高速情報通信基盤整備事業	市	福部・河原・用瀬・佐治・青谷	情報政策課 CATV網のFTTH化（光化）	4 継続(遅延・縮小)	計画の見直しにより、整備完了予定が令和8年度から令和10年度に遅延した。
情報化	過疎地域持続的発展特別事業		地域内情報伝達設備支援事業	市	福部・河原・用瀬・佐治・青谷	協働推進課 鳥取市自治連合会加盟の町内会を対象に、8割以上の世帯が情報伝達設備の整備を希望する町内会に対して、一部補助をするもの。	1 完了	令和4年度で事業が完了した。地域コミュニティ活動を円滑に行うために、町内会等が主体的に取り組む情報通信設備の整備を支援することにより、地域福祉及び地域連携の強化が図れた。
交通施設の整備、日常的な移動のための交通手段の確保	市町村道	道路	海士海岸線 区画線整備	市	福部	道路課 市道の区画線整備	1 完了	令和4年度内に事業完了
交通施設の整備、日常的な移動のための交通手段の確保	市町村道	橋りょう	湯山和田（無名橋0044号）橋梁補修	市	福部	道路課 橋梁修繕	1 完了	令和5年度内に事業完了
交通施設の整備、日常的な移動のための交通手段の確保	市町村道	橋りょう	八重原2号線（無名橋0021号）橋梁補修	市	福部	道路課 橋梁修繕	1 完了	令和5年度内に事業完了

鳥取市過疎地域持続的発展計画

持続的発展施策区分	事業名（施設名）		事業内容	事業主体	備考 (対象地域)		事業内容詳細	評価	コメント
						担当課			
交通施設の整備、日常的な移動のための交通手段の確保	市町村道	橋りょう	山湯山線（無名橋0033B）橋梁補修	市	福部	道路課	橋梁修繕	1 完了	令和4年度内に事業完了
交通施設の整備、日常的な移動のための交通手段の確保	市町村道	橋りょう	岩戸港線(岩戸大橋)橋梁補修	市	福部	道路課	橋梁修繕	4 継続(遅延・縮小)	計画通り、令和6年度に整備が完成する予定。
交通施設の整備、日常的な移動のための交通手段の確保	その他		道路台帳修正業務	市	福部・河原・用瀬・佐治・青谷	道路課	道路台帳の修正業務	1 完了	令和5年度内に事業完了
交通施設の整備、日常的な移動のための交通手段の確保	過疎地域持続的発展特別事業		交通空白地有償運送支援事業	市	福部・河原・用瀬・佐治	交通政策課	本地域内において住民などが主体となって取り組む交通空白地有償運送に係る経費支援	3 継続(計画通り)	計画通り。
交通施設の整備、日常的な移動のための交通手段の確保	過疎地域持続的発展特別事業		地方バス路線維持対策事業	市	福部・河原・用瀬・佐治・青谷	交通政策課	本地域内を運行する民間路線バスに係る経費支援	3 継続(計画通り)	引き続き路線バス維持対策事業は実施するが、R6、7年度はその財源に過疎債を充てない。
生活環境の整備	廃棄物処理施設	ごみ処理施設	焼却工場棟	広域	福部・河原・用瀬・佐治・青谷	生活環境課	鳥取県東部広域行政管理組合を構成する1市4町の広域焼却施設の建設 ○炉形式：連続運転式ストーカ燃焼炉（発電設備付） ○施設規模：240㌦（120㌦/日*2炉）	1 完了	令和5年4月1日、鳥取市河原町において、鳥取県東部広域行政管理組合が所管する「リンピアいなば一般廃棄物焼却施設」が本稼働した。
生活環境の整備	過疎地域持続的発展特別事業		浸水想定区域図作成業務	市	福部・河原・青谷	都市環境課	浸水想定区域図作成業務 令和3年度作成区域 ・鳥取市河原町 ・鳥取市青谷町 令和4年度作成区域 ・鳥取市福部町	1 完了	計画通り、令和4年度完了
生活環境の整備	過疎地域持続的発展特別事業		地域防災力強化事業	市	福部・河原・用瀬・佐治・青谷	危機管理課	地区毎の自主防災組織で整備する「避難所運営に必要な防災資機材」等購入を支援、また「小型可搬式ポンプ」の新規購入や更新を支援	3 継続(計画通り)	今後も自主防災会連絡協議会（組織）を通して地区又は町内会単位の防災訓練等の取り組みを支援し、地域防災力の向上を図る。
生活環境の整備	過疎地域持続的発展特別事業		地域コミュニティ除雪活動支援事業	市	福部・河原・用瀬・佐治・青谷	協働推進課	大雪時に、町内会等が自主的に取り組む除雪活動を支援する。 《発動条件》 鳥取市(北部または南部)に大雪注意報が発表されたとき 《補助対象経費》 町内会等が自主的に行う除雪活動にかかる経費(燃料費、除雪用具費、除雪委託料など) 《補助率等》 補助率 4分の3 補助限度額 5万円	3 継続(計画通り)	町内会等が行う除雪活動に対する負担は、大雪によって増大し、地域コミュニティの維持に大きな影響を及ぼす。生活に欠かせない道路除雪活動にかかる経費を支援することにより、地域コミュニティの維持と協働除雪による市民生活の安全・安心を確保する一助となった。

鳥取市過疎地域持続的発展計画

持続的発展施策区分	事業名（施設名）		事業内容	事業主体	備考	担当課	事業内容詳細	評価	コメント
					(対象地域)				
子育て環境の確保、高齢者等の確保保健・福祉の向上及び増進	高齢者福祉施設	その他	福部砂丘温泉ふれあい会館設備修繕事業	市	福部	長寿社会課	・吸収式冷温水発生機更新 ・冷却塔更新 ・空調用冷温水膨張タンク修繕事業	3 継続(計画通り)	計画通り、令和4年に吸収式冷温水発生機の改修が完了した。 計画通り、令和5年度に冷却塔更新が完了した。 計画通り、令和6年度に空調用冷温水膨張タンク修繕が完了する予定。
教育の振興	学校教育関連施設	統合関連施設	福部未来学園グラウンド等整備事業	市	福部	教育総務課	鳥取市立福部未来学園のグラウンド及び幼稚園の園庭整備を行うもの。	1 完了	計画通り、令和4年度に整備が完成。
教育の振興	学校教育関連施設	統合関連施設	市立小学校小型除雪機整備	市	福部・河原・用瀬・佐治・青谷	教育総務課	鳥取市立小学校に配置している小型除雪機のうち、使用・修繕が困難となったものを更新するもの。	3 継続(計画通り)	故障したものから優先的に更新していく。
教育の振興	学校教育関連施設	統合関連施設	福部未来学園電気設備更新事業	市	福部	教育総務課	福部未来学園に電気を引き込む電気設備の更新等を行うもの。	1 完了	計画通り、令和6年度に更新等が完成。
教育の振興	幼稚園		福部未来学園幼稚園事務室エアコン導入	市	福部	幼児保育課	福部未来学園幼稚園の職員室にエアコンを設置するもの。	1 完了	令和5年度に事業が完了した。
教育の振興	過疎地域持続的発展特別事業		遠距離等通学費補助金	市	福部・河原・用瀬・佐治・青谷	学校保健給食課	遠距離等の要因で、バス等で通学する児童生徒の保護者に対して、通学費の補助を行う	3 継続(計画通り)	引き続き、該当保護者の経済的負担の軽減を図っていく。
集落の整備	過疎地域持続的発展特別事業		地域振興会議	市	福部・河原・用瀬・佐治・青谷	地域振興課	8地域の地域振興会議を概ね年8回開催する。 8地域の地域振興会議の情報交換及び先進地視察等研修の実施のため、また本市の一体的な発展を目指す立場で市長と意見交換を行うため、会長会を年2回開催する。（8月、2月）	3 継続(計画通り)	委員報酬、視察旅費などに充当。 今後も計画通り、地域振興会議（R7年度からは地域振興未来会議）を設置し、総合支所エリアの振興・活性化を図っていく。